

令和3年度第1回長浜市総合教育会議要点録

I 日 時 令和3年7月8日（木曜日）13時30分～15時15分

II 場 所 長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】藤井勇治市長、板山英信教育長、
廣田光前教育委員、美濃部俊裕教育委員、宮本麻里教育委員、
中村亜紀教育委員、松宮誠也教育委員

【事 務 局】酒井教育部長、鵜飼教育委員会事務局次長、
清水教育委員会事務局次長、服部教育総務課長、
中北教育改革推進室長、筧教育指導課長、宮本すこやか教育推進課長、
前畷教育総務課長代理、成田教育指導課長代理、西川教育総務課副参事、
松居総務部長、森総務部次長、柴田政策デザイン課長、
山崎政策デザイン課係長、他担当職員（3名）

【議事進行】松居総務部長

【傍 聴 者】1人

【報道機関】無し

IV 内 容

1 開 会

2 市長挨拶

（要旨）

- ・第1回長浜市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、日ごろから、子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。
- ・現在、長浜市で最重要事項として取り組んでいるのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止です。本日も全員マスク着用で、日ごろから感染防止に取り組んでおられるおかげで、最近は感染者数も落ち着いておりますが、まだまだ油断はできません。
- ・その中で、期待のワクチンが開発されたことで、我が長浜市もワクチン接種に全力を挙げております。国は、7月末までに65歳以上の接種希望者への接種を完了させるというスケジュールを組んでおり、本市でも同様に、7月末までに、65歳以上約3万5千人の対象者の接種を終える予定であります。残りの期間で、一人でも多くの市民に接種をしてまいります。

- ・そして、次の段階として、12歳～64歳の対象者約7万人への接種を行うため、既に接種券を発送し、8月1日から予約を受け付け、順次進めてまいります。
 - ・しかし、政府のワクチンの確保状況が不安になってきています。本市は、現時点では7月接種分のワクチンの供給量については問題ない状況です。市として、各医療機関の体制を整え、医療従事者の方々には休日返上で対応いただいている中で、ワクチンが無いというのはいかがなものでしょうか。8月以降も順調に供給され、接種を順調に進めていけるようにしていきたいと思っております。
 - ・また、ワクチン接種の効果でコロナの終息を図り、経済の回復を国、県、市が連携して進めていきたいと思っております。
- ・東京2020オリンピック、パラリンピックが近づいてまいりました。市内出身者からは吉田拓馬選手や清水千浪選手などの方が日本代表に選出されました。今の子供たちにとっても、地元から日本代表選手が選出されることは大きな夢や希望に繋がると思うので、ここで紹介させていただきます。
 - ・吉田選手は先日、市役所に報告に来ていただき、オリンピック出場の夢が実現したことは大変嬉しいと言っておられ、私からも、素晴らしい快挙であり、是非頑張ってくださいと激励を行いました。
 - ・清水選手は、昨日リモートで激励会を行いました。清水選手も、1つのことをやり遂げる強い精神力をお持ちであると感じました。
 - ・二人ともふるさと長浜への思いをしっかりお持ちであり、長浜のためにも頑張ると力強く言っていただきました。市長としても、お二人の出場は誇りであり、全市民あげて応援していると伝えさせていただきました。
- ・最近子供たちと接する機会がいくつかあったので報告致します。
 - ・まずは、教育長からご提案いただき、6月4日に神照小学校で黙食の現場視察と体験をさせていただきました。コロナ禍で黙食を行っているということは聞いておりましたが、初めて現場を拝見し、これまでであればクラスの友達とお喋りをしながら食べるというのが給食の楽しみであったはずが、全員が前を向いて、ただ静かに黙々と食べておられる様子を目の当たりにして、大変胸が痛みました。私たち大人は、これまでの、友達や先生と楽しく元気に笑顔で給食が食べられる日常に学校現場を戻していけるよう、動いていかねばならないと痛感しました。
 - ・6月9日には、朝日小学校で行われた「ふるさとの山学習」を見学しました。毎年、山本山から賤ヶ岳を実際に歩いて、ふるさとの山を体験する学習ですが、今年はコロナの関係で、実際に行くのではなく、ドローンで小学校の周りや山本山、琵琶湖や賤ヶ岳を空撮した映像を見るという工夫したやり方で実施されました。空から見る景色は非常に綺麗で、まさにコロナのピンチをチャンスに変えて取り組んでいただいていると感じております。
 - ・6月12日は、余呉小中学校の運動会を見学しました、本来は1日開催のところを半日に短縮し、観覧者も少なくするなどの対策を取りながら、先生やPTAの方々の様々な工夫の中実施された運動会であったと感じました。
 - ・6月25日は、今日のテーマでもあるICT授業の見学に、長浜南小学校を訪問しました。iPadの活用に子どもたちも手探り状態かと思っておりましたが、子どもたちは私たちよりも簡単に操作をしており、まさに「新しい文房具」として

使用されていると実感しました。これからこの新しい文房具をいかに活用していくかが私たちに与えられた課題だと思いますので、本日は委員の方々にも様々なアイデアをいただきたいと思います。

- ・7月6日には、千葉県八街市で児童の死傷事故が発生したことを受け、長浜警察署、長浜市交通安全協会ボランティアと一緒に通学路安全啓発を行いました。交通ルールは、自分が守っていても相手が守らなければ事故は発生してしまいます。大人も子どもも全員が、普段から交通ルールを守っていかねばならないと痛感いたしました。
- ・7月7日には、長浜北高校女子ソフトテニス部の皆さんが、インターハイに出場されるということで表敬訪問に来ていただきました。皆さん大変元気で爽やかで、チームワークを大切に、テニスを楽しんでやっておられるということが伝わってくる、我々大人も励まされる訪問でした。長浜市は市民テニスコートをいち早く整備しており、以前は天皇賜杯・皇后賜杯の会場にも使用され、滋賀国体の会場にも選ばれるなど、大きな大会も開催可能な仕様になっているため、これを活かしてテニスのまち長浜にしよう、また皆さんがテニスのまち長浜の担い手になってほしいとの言葉をかけさせていただきました。インターハイも皆で応援して良い成果を期待したいと思います。
- ・私はできるだけ実際の教育の現場に出たいと思っております。教育については素人ですけれども、様々な受け止め方をし、思う事は伝えさせていただいて、教育の充実に活かしていきたいと思っております。
- ・本日は、ICTの活用をテーマに、この会議を開催させていただきます。新しい時代の教育、ICTの活用について、ご意見・ご議論を賜りたいと思います。本日は、よろしく願いいたします。

3 意見交換

テーマ：「長浜市の教育の情報化の推進について

ー学習用端末（iPad）とデジタル教科書の効果的な活用に向けてー」

(1) 行政説明

- ・GIGA スクール構想に伴う学校 ICT 活用推進について（事務局：教育改革推進室）
- ・学校現場におけるデジタル教科書の活用について（事務局：教育指導課）

(2) 授業体験

- ・授業のデモンストレーション

(3) 意見交換

＜意見：教育委員＞

このデモンストレーションはなかなか面白かったです。しかし、初めて操作すると、スムーズな操作ができなかったり、Wi-Fi が繋がりにくいなどのトラブルが

起こると対応が大変だと感じました。

しかし、何回か使ってみることでこの問題は解決すると思うので、積極的に使っていてほしいと思います。

<意見：教育委員>

資料2項の学校ICT支援員6名はどのような方がなられているのでしょうか。機器の専門家でしょうか。

また、3項の「子供が学びを深めるためのツールとしてICTを活用し、教師主導から子ども主体の授業を目指す」ということが今回の学習指導要領の大事なところで、その一つのツールとしてこれらの機器があると、そういったことが可能になると思います。新しいものを導入すると、どうしても慣れるまでが大変ですので、まずは先生が慣れて、その後で子どもが慣れていくことが大切であると思います。また、このソフトは、全学校共通なのでしょうか。自治体によって異なるのでしょうか。

<回答：事務局>

ICT支援員には、システムエ ICT スキルを有する専門家を配置しております。

また、ロイロノートというソフトは、市内全ての小中学校、義務教育学校には共通して導入しておりますが、何を導入するかは各自治体判断になりますので、他市町村とは異なる場合がございます。

<意見：教育委員>

様々なソフトが導入されていくと、次々覚えていかないといけないという課題があると感じていたので、市内の学校で統一されているのは良いことであると思います。

また、これまでは手書きでノートに書いたものや、グループで模造紙にまとめたものを黒板の前で発表するという活動をしていたものが、デジタルで簡単にできることになりましたが、おそらく最初はその作業をするのに手間取ってしまって、肝心な意見交流をする時間が削減されてしまうのではないかと懸念されます。

そのため、まずは個人よりもグループ活動の中で使用することから始めると、ソフトの使い方の話し合いからすることで操作方法にも慣れ、グループでの会話そのものが学習に繋がると思うので、まずはグループ活動で使用していくのが良いのではないかと思います。

いずれにしても、子どもたちはこのツールを使うことに興味があるので、この興味を活かして、子どもたち一人ひとりの新しい可能性や力を引き出していただければ、私たちの時代以上の教育活動ができると感じました。

<意見：教育委員>

先日、湖北中学校の見学に行かせていただいて、学校での子どもたちの使用している状況を見たり聞いたりする中で、意外に子どもたちは機器にスムーズに慣れて、使

用しているという印象を受けました。

今日までに、スタッフやお客さんに、子どもたちが授業でタブレットを使用していることを知っているか聞いてみたところ、意外にお母さんたちは全然知らなくて少しショックだったんですが、例えば学校で触っているということは知っていても、何をしているかは知らない方ばかりでした。「デジタル教科書を使うことで個別最適な学びと協働的な学びを充実させる」ということはすごく大切であると思っているのですが、その目的がなかなか伝わっていないので、こういう意味があるからタブレットを使用しているという目的を保護者に伝わるような発信ができないかと思いました。

その中で、使用状況や内容に学校による差や、同じ学校でも先生によつての差があることをお母さんたちも心配をされていました。難しいとは思いますが、どの学校、どのクラスでも同じ水準で授業ができると良いと思いました。

また、折角、タブレットを活用したい取り組みをしているのに周知されていないことに対して、どうすれば発信できるかを話している中で、今日のような資料をPDFでメール配信してくれるだけで、保護者は見るという意見がありました。

現在もフェイスブックや学校のホームページでも情報発信はされていますが、文章や活動写真だけでは中身が見えてこず、全部文字では難しかったりするので、簡単に視覚化できて誰にでもわかりやすいものを発信できたらと思います。

また、コロナで休校になった際にタブレットを使って日記を書いたり宿題をした学校もあるようで、その時はやり方もしっかり教えてもらって、とてもよかったという声がありました。

また、資料にも健康面の記載がありますが、視力への影響について心配されている保護者の方が多く、家でタブレットやゲーム機を使うときに、ブルーライトカット眼鏡を付けている家庭はとても多いです。しかし、学校に持ってきていいのか悩まれている方もおられるので、それを、全員強制で購入して持ってくるのではなく、持っている人は学校へ持ってきてもいいという声かけがあると良いと思いました。

<意見：教育委員>

先日、湖北中学校で生徒がスムーズに操作をしているのを見て、今の子どもは簡単に操作や作業ができるということを感じました。また、先程の動画で京都の小学校での意見交換の様子がありましたが、昔よりも今の子は自分の意見を言う、発信する力があるのではないかと思います。そういったことを踏まえ、タブレットは非常に役立つツールであると思いました。

また、先日リュートプラザでの辻由起子さんの講演会に参加させていただいて、まだまだ申請書などを紙で窓口や郵便で出すことも多いが、郵便の出し方が分からず困っている若い人もいと仰っていました。現在は、申請もネットで可能であったり、QRコードで読み取るだけなど便利になっている反面、まだ紙や郵送のやり取りが必要なこともあるので、デジタル化を進めていくことは重要ではありますが、紙で書く、郵便を出すといった従来のことを教えていくことも大事であると思っています。

<意見：教育委員>

動画の中で子どもたちが分析結果を発表する場面がありましたが、資料を与えられて皆で分析するということは、私たち世代も紙ではありますが行っていて、それを現在はICTを使って発信するという点は非常に便利なツールであると思います。

そこで、このICTソフトを導入するにあたっての目標、目的があるのでしょうか。

<回答：事務局>

ロイロノートの活用目標については、各クラス1日1、2時間の使用を目安としております。目指す姿としては、授業を担当する教員、また生徒たちがロイロノートの基本編を習得して授業で活用することができるということを掲げております。

<意見：教育委員>

ICTの利用数の目標ではなく、ICT教育で子どもたちにどのような成果を与えたいのかを教えてください。

<回答：事務局>

個別最適な学びと協働的な学びを実現することによって、全ての子どもたちの可能性を引き出すことを目標としております。

<意見：教育委員>

端的にいうと、子どもたちの学ぶ力を底上げすることがゴールかなと思いますが、その個別最適化をどのように実現されるのかを教えてください。

<回答：事務局>

個別最適な学びにつきましては、最先端の教育ソフトウェアEdTechを経産省の補助金を活用して、今年度、無償トライアルを実施することで実現を目指していきます。

導入計画については、全ての学校、教員がEdTechの導入の目的、狙いを共有するため、全校一律にまずは1学年分の導入を行います。

導入学年は、ソフトの活用頻度や、得られたデータを活用して指導改善に活かすといった観点から、学習内容や授業時間数に比較的余裕がある最終学年とし、小学校第6学年、中学校第3学年、義務教育学校の第9学年を対象といたします。

<意見：教育委員>

ありがとうございます。では、個別最適化の言葉の定義はどのようなものか、こういった形で個別最適化を目指しておられるのかを教えてください。

<回答：教育長>

正直に申し上げますと、端末を授業で使うことが目的で、ICT教育機器を導入し

ましようということは重要視しておりません。

個別最適化、いわゆる、より個人に即した学習をしていくことは、簡単に申し上げれば一斉授業からの脱却であると考えております。例えば、教師が「皆さんわかりましたか？」と聞いて「はい」と子どもたちが答えても、本当にどうなのかを確かめる術を私どもの世代の一斉授業では持ち合わせておらず、テストで確認しようとなるわけです。

その部分が、EdTech、いわゆる学習支援ソフトを導入すると、子ども一人ひとりの習熟度や達成度に応じて、学習を展開できる利点があります。しかし、全てこれに切り替えるのではなく、従来の授業形態の中に導入することによって、子どもたちの学習の理解度を高めることができる可能性があります。

EdTech は万能のように言われておりますが、やってみなければ分からない部分ももちろんあります。その検証を今年度の無償期間でしっかりと行い、次の段階へと進めていきたいと考えております。

<意見：教育委員>

ありがとうございます。「個別最適化」という言葉だけを捉えた時に、できる子とできない子のそれぞれのペースに合わせて指導を進めていくというように捉えたんですが、当然、子どもたちには個人差がある中で、一斉授業の教育スタイルで、一人ひとりに沿った授業をしていくのは現実的に難しいのではないかと思います。

もし、タブレットを家に持って帰って使っていいとなると、また別の効果や可能性はあると思いますが、現時点では持って帰るといふところまでは方向性として決まっていないのではないかと感じます。そうなる、個別最適化を目指すにあたって、非常に大きなハードルがあるので、そのハードルに対して何を重視すべきかをあらかじめ共有しておく必要があると思います。

一方、協働的な学びの部分では、子どもたちで互いに刺激しあって勉強するというのは、学習に意欲的でない子に対しても非常に訴求力があり、子どもたちのやる気を引き出す可能性が十分にあると思うので、そこはしっかりと行うことで、成果としても大いに得られる可能性があると思います。

最後に、子どもたちの学力向上に対しては様々な考え方があると思いますが、個人的には子どもたち自身に、なぜこれを勉強しないといけないかという「目的意識」を持たせないと駄目だと思います。このような便利なツールがあるから勉強するわけではなく、今はタブレットに興味があっても、飽きたら勉強はしなくなると思います。

例えば、この勉強は将来こういう風に使える、生活に繋がるということが分かれば、将来目指したい職業がある子はその分野を一生懸命勉強するでしょうし、そういった目的を動画を活用して伝えられると、子どもたちも理解しやすいと思います。

そういったことで、目的意識を子どもたち一人ひとりに持たせてあげることが、教育の根本かと思うので、その辺をICT教育の中でできると良いと思いました。

<意見：市長>

皆様のご意見、ありがとうございました。

このICT機器は「新しい文房具」ですので、教員も子どもも、いかに早く慣れて活用してくかが大切であります。

私は操作をするにも、これはなぜかと質問してしまいましたが、子どもたちは質問せずに、まず指と目を動かし、感性で使用しています。従って、機器を上手く活用して子どもたちをどう豊かに育てるかは、大人次第ではないかと受け止めております。そのためにも、行政と学校現場が一緒になって進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

<終わりに：教育長>

ありがとうございました。皆様から様々なご意見を頂戴し、大変参考になりました。

GIGA スクール構想が発表される前に、長浜市は市独自のICT教育環境整備計画を様々なパターンで作っておりました。その中で、民間会社の方が仰られた「ICT機器も要はスマホと同じです。スマホを使う際に、使い方をマニュアル等で習熟してから使うのではなく、使ってみるうちにやり方や便利な機能、自身にあった環境設定等ができるように、まずは使ってもらうしかありません。」と仰ったのが印象に残っております。

長浜市も4月から様々な学校、学年で導入しておりますが、先生方には「とにかく効果の有無は考えずに、一度、義務とさせていただいてもいいので使ってください。」とお願いしております。そうでないと、来年の3月に検証した結果、効果はいかほどかを求めるのは無理だと思っています。

また、これを導入する中で、市長も仰ったように、新しい文房具をどう活用するか。この教科のこの部分に非常に有効である、この部分は従来通り自分でノートに鉛筆で書くほうが効果的であるなど、授業によつての取捨選択が今後必要になってくると思います。

また、一斉授業からの脱却は今後の学校教育の大きなテーマだと思っております。では、一斉授業を行わないのであれば、学校という箱で、さらに小さな教室で授業を行う必要はないのではないかととなります。実際、アメリカでは既にオンラインハイスクールというのは盛んに行われていると聞いています。しかし、学校にみんなが集まっているからこそ、大切な学校としての要素があるわけで、オンラインとオフラインの兼ね合いが今後の教育において重要になってくると思います。

全てが学習支援ソフトを使った授業ではなく、ある一定の時間、例えば数学では、解き方そのものは一斉に教えて、そのあとの練習問題は個人の習熟度に合わせた問題をするとといったような使い方が求められると思います。

私は、機器を使って授業をしたことがないので想像にはなりますが、授業を見ている中で感じるのは、端末で入力した文章は漢字の変換も自動でしてくれることから、ノートに鉛筆で書いたものと同じ文章でも、良い文章にみえてしまいます。その点で

は、子どもたちの文字を書く力、漢字の力がどうになってしまうのかという危惧もしています。

いずれにせよ、まだ始まったばかりでありますので、今年度の目標としては、積極的に使用していくことに尽きると思います。

また、各学校で様々なやり方で導入しておりますので、今回訪問いただいた学校以外も、ぜひご覧いただきたいと思います。以上です。

4 その他

<事務局からの連絡>

本日の議事録については、内容を委員の皆さまにご確認いただいたのち、ホームページにて公開します。

また、今年度の総合教育会議は2回の開催を予定しており、次回の日程については、後日改めて連絡させていただきます。

15時15分 閉会